

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年11月5日

【評価実施概要】

事業所番号	4271402085		
法人名	有限会社 エイエムエスカンパニー		
事業所名	グループホーム ほびある		
所在地	〒859-1503 長崎県南島原市深江町丙1899-2 (電話) 0957-65-1515		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット 日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	H19年10月25日	評価確定日	平成19年11月19日

【情報提供票より】(H19年 8 月 22 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・(平成) 16 年 10 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 15 人
職員数	18 人 常勤 9 人, 非常勤 9 人, 常勤換算 11.92 人

(2) 建物概要

建物構造	木 造り
	1 階建ての 階 ~ 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	3,000 円	その他の経費(月額)	9,900 円	
敷 金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	350 円
	夕食	350 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(8 月 22 日現在)

利用者人数	15 名	男性	6 名	女性	9 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	1 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 84.4 歳	最低	67 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	泉川病院 布井内科医院 上田歯科
---------	------------------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

風光明媚な場所に立地されており、雲仙岳の噴火後にできた団地の一画に、平成12年4月1日に1ユニットで開設され、その後、平成16年に2ユニットへ増設されている。年数を経て地域の住人とは顔馴染みの関係であり、ホーム開催の夏祭り参加や消火・避難訓練に協力され、密接に交流が図られている。常に前向きの姿勢があり、毎月スローガンを掲げ、職員が一丸と成って、入居者のケアに当たっている。年数を重ねる毎に更なる向上を心がけ、今年より音楽療法を取り入れ新しい事に挑戦し、入居者の残存機能を十分に活かした生活を支えるケアを実践されており、共に楽しみながら穏やかな生活を送られていることが、入居者の表情から伺い知れるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	評価の意義を理解されており、評価後は改善計画シートの作成はされていないが、職員と話し合いを実施し、改善項目に対し積極的に取り組み、質の向上が図られている。評価後は期間を設定して計画的にする為、改善計画シートの作成を期待したい。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今年度は書式の変更により、職員全員で取り組むことができず、施設長による記述である。職員の意識向上の意味でも、全員で話し合いを基に自己評価を記述され、職員のスキルアップに繋がる取り組みを期待したい。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月毎に、自治会長・消防署・食生活改善委員・家族の代表2名・市町村の担当者・管理者2名・職員2名の構成メンバーで開催され、ホームの様子や消防関係のお話や子供との触れ合い方等、出席者から様々な情報や意見が聞ける活発な話し合いが行われ、運営の充実に活用されている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	毎月発行される「ほびあるだより」に施設長のコメントや手紙と一緒に配布したり、状態の変化は逐一電話で連絡され、ホームの様子を伝えている。殆どどの家族が頻りに来所されており、訪問時は様々な話をされ、会話や気付きの内容は連絡ノートに記録し、職員間で共有され、必要に応じて答える取り組みをされている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームは住宅地の一画に在り、地域の人々とは、施設長の自宅や団地内の入居者が2名が入居されており、顔馴染みの関係である。日頃から散歩時の声掛けや、年1回のホームの夏祭りに参加され、地域の住人が来所される機会を可能な限り設けられ、密接な関係作りができています。又、地域の消防団が施設内の点検や消火・非難訓練に参加され協力的である。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は「個人の意見を尊重し、個々にあった生活を」として住み慣れた地域の中で、普通に生活されるよう理念に沿ってケアをされている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	常に家庭的な雰囲気を作る事を心掛け、入居者の一人ひとりの希望に沿って楽しんで生活して頂く事を念頭に置き、職員は理念を共有しながら日々のケアにあたっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは住宅地の一画に在り、施設長の自宅や、団地内の入居者が2名入居していることから顔馴染みの関係である。日頃から散歩時の声掛けや、年1回のホームの夏祭りには参加されたり、地域の人が来所する機会があり、密接な関係である。又、地域の消防団が施設内の点検や消火避難訓練に参加され、協力的である。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を理解され、前回の評価に対する改善計画シートの作成はないが、積極的に取り組まれて改善されている。自己評価は書式の変更により、全員で取り組むことが出来ず、施設長の記述である。		自己評価は職員の意識向上の意味でも、全員で話し合い意見を総括しての記述をされることに期待したい。又、評価後は改善計画シートを全員の話し合いの下で作成され、職員のスキルアップに活用される事を期待したい。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に、自治会長・消防署・食生活改善委員・家族の代表2名・市町村の担当者・管理者2名・職員2名の構成メンバーで開催され、ホームの様子や消防関係のお話しや子供との触れ合い方等、活発な話し合いが行われ、運営の充実に活用されている。		

グループホーム ほびある

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護保険のみでなく、入居者の書類上の手続きや、以前、自宅で独居だった入居者に、入居後も福祉課の職員がホームへ訪問されており、密接な係わりが実施されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月発行される「ほびあるだより」に施設長からのコメントや手紙と一緒に配布されたり、状態の変化時は電話による連絡をされている。又金銭管理は1名で金銭授受を明確にされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	殆どどの家族が頻繁にホームに来られており、訪問時に様々な話をされ、会話や気付きの内容は連絡ノートに記録し、職員間で共有され、必要に応じて答える取り組みをされている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の待遇面(休憩時間や休日等)は可能な限り優遇されるように努力されているが、離職があり、管理者の交代は家族に知らせる事はあるが、職員に関しては知らせていない。		入居者やその家族にとっての馴染みの職員によるケアは安心感に繋がる。新人職員の紹介コーナーを作り、写真やコメントを記述され、家族へお知らせの方法を工夫されることが望まれる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月スローガンを掲げ(例、事項に合わせ・整理整頓・健康管理・外気浴等)実行されている。研修案内を回覧し参加者を募り、ケア会議の司会者・記録・見守りの担当を、職員が交代をする等、全ての職員に責任感を持たせ、個々の入居者の状態把握や勉強をする事で、スキルアップを目指している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム間で職員のバレー大会・合同研修・施設長の交流会・グループホームケア研究会参加・近隣のホームの夏祭りや秋祭りへの参加等様々な交流を持たれ、情報交換を実施され、質の向上に向けて取り組まれている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居希望者に対し、看護師とスタッフ代表が面会し、家族と話し合いの場を設けている。又、施設見学に来られて、ホームを理解し納得をされたからの利用に繋がるよう努力されている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日々の生活において、一方的にではなく、入居者と共に食事の手伝いや準備を一緒にし、協働することを心がけ、学び、支えあう関係を楽しまれている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居時の面談記録やサマリーを基に基本情報の作成や、毎月の会議での個々の入居者の情報交換を実施し、思いや意向を理解し、共有を図っている。入居者の希望を取り入れ、飲酒・喫煙については、家族の方と協力し、管理しながら支援されている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>計画作成に当たっての担当者会議に参加される家族は2名であるが、電話や面会時に聞き取り、目標を決め個々のサービス内容を詳細に記述した計画が作成されている。作成後は家族の同意を得ている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入居者の状態に合わせ見直し期間を設定している。毎月の会議で個別の気付きを記録し、状況把握を行い、検討し見直しを行い、現状に即した介護計画が作成されている。</p>		

グループホーム ほびある

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携・往診・自宅訪問・馴染みの床屋への送迎・通所リハビリ(週2回)・外泊等、入居者やその家族の希望を取り入れ、可能な限り柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の確保があり、入居者は希望でかかりつけ医や往診を利用している。医療連携では利用者や介護職員へ助言を記述しながら共有を図り、適切な医療が受けられる取り組みがある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居者や家族の意向を重視し、看取りに関する指針を明確にした文書を準備している。医療連携に関する事は、24時間の経過をホワイトボードに書き込み、確認・共有を図っているが、医療行為が連携では不可能な重度になると、終末は病院で終わられている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者のプライバシーに配慮され、調査日の居室見学は家族から許可の出ている入居者に声掛けをしながら、見せて頂いた。常日頃から職員に個人情報の話をし、権利擁護に関する研修に参加されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	此処での主人公が誰であるか理解し、その日にしたい事(飲酒・喫煙・起床・入浴等)を把握し、ホームの都合に合わせることなく、柔軟な取り組みが実施されている。		

グループホーム ほびある

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付け等の一連の作業を、できる入居者と一緒にされている。以前は入居者と職員と一緒に食事をされていたが、職員の希望により(休憩時間の確保の為)現在は施設長のみと一緒に食事をされ、職員は食事介助を行っている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴可能であり、バイタルチェックを行い、シャワー浴を取り入れながら希望に沿った入浴介助を実施し、入浴拒否者には翌日の入浴を約束する事で、最低でも週2回以上の入浴をされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	花壇の手入れ・職員と一緒に机や棚作り・読書・貼り絵・裁縫・居室の掃除・洗濯物たたみ・囲碁等のできる事を積極的にされ、最近始められた音楽療法は皆さん喜ばれ活力に成っている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩・ドライブ・年1回の外出・墓参り・法事の出席等、出来る限り外出の機会を多く取り入れ、気分転換や健康面に配慮しながら支援されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日々の様子に注意を払い、玄関にチャイムを設置され、現在は徘徊者は無く施錠をされていない。無断外出の対応に関するマニュアルを作成し、徘徊者訓練を実施している。又、地域の住民や南島原市グループホーム連絡網により連携が取れている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	急変時の対応について、災害・病変・事故時対応連携支援体制を確立されている。消防署や地域住民が参加され、年2回火災・避難訓練を昼夜を想定し実施されている。地震・水害・土石流に関する訓練の実施は無く、備蓄や非常持ち出しの準備にまで至っていない。		災害を様々な面から見直し、地震・水害・土石流を想定した訓練の実施をされ、非常時の持ち出し品や備蓄状況(水・食料・備品・寒さを凌げる物等)に関する準備をされる事を期待したい。

グループホーム ほびある

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	必要に応じ病院に相談し、カロリーや栄養バランスをチェックされているが、現在の入居者は食事制限のある人は無く、嚥下や咀嚼に配慮して、ミキサー・刻み・粥等、身体状況に合った食事を準備されている。食事を記録し、水分量は飲水が不能な人には注意を払いながら支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム全体が日当たりが良く、住宅地の一画で騒音はなく、季節の花や入居者の作品があり、穏やかな雰囲気である。又、リビングに畳を敷き、横に椅子を置き入居者の憩いの場所であり、居心地よく過ごされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの準備品はベットと症頭台で、居室はフローリングと畳が入居者の希望で変化があり、椅子・テレビ・生活雑貨等入居者の好みの馴染みの品が持ち込まれ、個性溢れる居室作りが出来ている。		